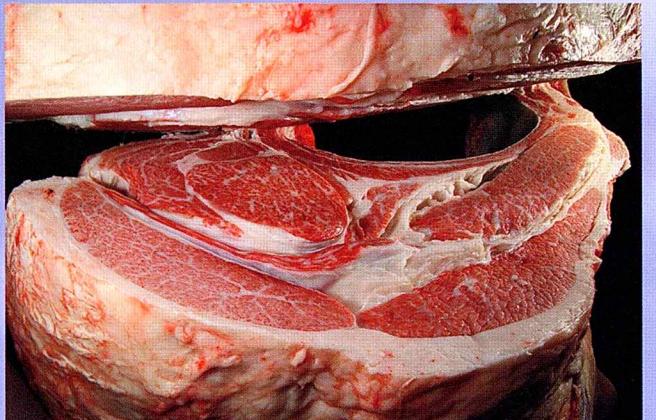


# ストレスフリーな牛づくりで 地元鹿児島全共への出品を目指す

鹿児島県立曾於高等学校

今年1月にオンラインにて開催された「第5回和牛甲子園」の枝肉評価部門で最優秀賞に輝いたのは、鹿児島県立曾於高等学校だった。出品牛50頭中BMSNo.12が14頭というハイレベルな戦いを制し、見事日本一に輝いた。曾於高校は、初出場の第2回和牛甲子園の枝肉評価部門でも最優秀賞に輝いており、今回が3年ぶり2度目の最優秀賞受賞となった。審査講評では「一般の共励会でも遜色ない、全国チャンピオンクラスの枝肉」と讃えられた。

今回は担当教諭である太田裕士先生に、チャンピオン牛を輩出した飼養管理と、いよいよ開催まで2ヵ月を切った鹿児島全共に向けての取り組みについてお話を伺った。(詳細は86頁から)



最優秀賞を受賞した枝肉（血統：秀幸福一安福久一勝忠平、29ヶ月齢、去勢、枝重601kg、ロース芯100cm<sup>2</sup>、バラ11.7cm、脂肪厚2.5cm、歩留基準値80.4、BMSNo.12）。バラの腹鋸筋は6cmにもなった（写真はJA全農提供）



和牛甲子園の盾を持つ太田裕士先生（右）と全共候補牛「しえな」号を担当する本坊志瑛奈さん



「かぐや」号。第2回大会と第5回大会にて最優秀賞を受賞した牛は、どちらもかぐや号の産子であり、能力の高さが窺える。現在は受精卵用の採卵を行っている



8月に開催される地元の枝肉共励会に出品予定の牛。写真の通り前幅が凄まじく、結果が楽しみだ

# 肉質部門日本一!



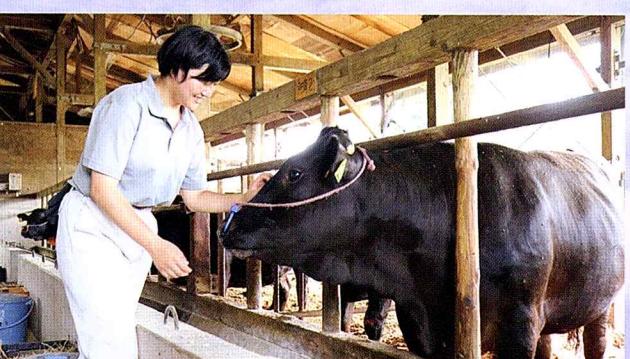
日本一のポーズを決める肉用牛専攻班の皆さん。（左から）前田良文校長先生、本坊志瑛奈さん、里園知哉君、矢野輝星君、川畠穂花さん、徳永優智君、太田裕士先生。右上の牛像は道の駅すえよしのもので、「日本一」の文字の入った特大油单で地元高校生の活躍を祝福した



全共候補牛「しえな」号。3年生の本坊志瑛奈さんが担当している。曾於地区の1次予選会では2区で優秀賞5席に入賞しており、一般の出品区でも審査対象となっている



人工哺乳で育てている子牛。現在は3頭が人工哺乳で、生徒たちが哺乳を行っている



牛は人慣れしていて、手を出せば近づいてくる。牛舎に人が入っても、肥育牛たちはゆったりと座っており、まさにストレスフリーに過ごしていた